

## 助成年度：平成 16 年度

[所属] 北海道大学大学院 水産科学研究院

[役職] 教授

[氏名] 廣吉 勝治 (他計 5 名)

[課題]

### 日本漁業における多面的機能に関する問題の整理と展望

[内容]

今日、我が国の漁業・漁村・漁業者が食料供給以外の沿岸域環境保全、漁村社会維持、漁村の景観や文化保存等、健全な海域環境・自然・文化を保全しはぐくむ多面にわたる機能・役割を有することに重要な関心を払うべきであるとの認識が内外共に高まっている。しかし、施策展開の特徴において、漁業生産の構造的縮減という現状のもとで、農林業行政への追随と WTO 対応といった当面の漁民対策的駆引きが先行し、漁業・漁村の多面的機能支援をめざす漁業独自の役割の積極的評価という方向の国民合意の形成に資する概念形成の課題が、十分に検討されてきたとは言い難い。我々の研究は、漁業における多面的機能の存在とその推進を有意義なものと認識した上で、沿岸域における共同体的漁業の市民的、環境的価値と利用の広がりを捉え直そうとする近年の「コモンズ」の思想的展開を評価しつつ、多面的機能に関し漁業固有の側面、役割、機能等を抽出する基礎的整理を行うものである。そのため、本研究は、①既存の関連研究のレビューと問題点抽出、②2001年に系統機関で実施された漁業の多面的機能に関する国民アンケートの再吟味、③農林業との比較における多面的機能支援方策の再検討、④現地検討会を踏まえた新たな政策課題の整理と提示、などを内容とする調査研究を実施した。以上から、本研究は漁業における多面的機能のコンセプト解明と施策展開の方向付けにおいて新たな視点を提示することができた。